

7-14 2.5万分の1花折断層ストリップマップの刊行について Publication of the strip map of the Hanaore fault, scale 1:25,000

産業技術総合研究所

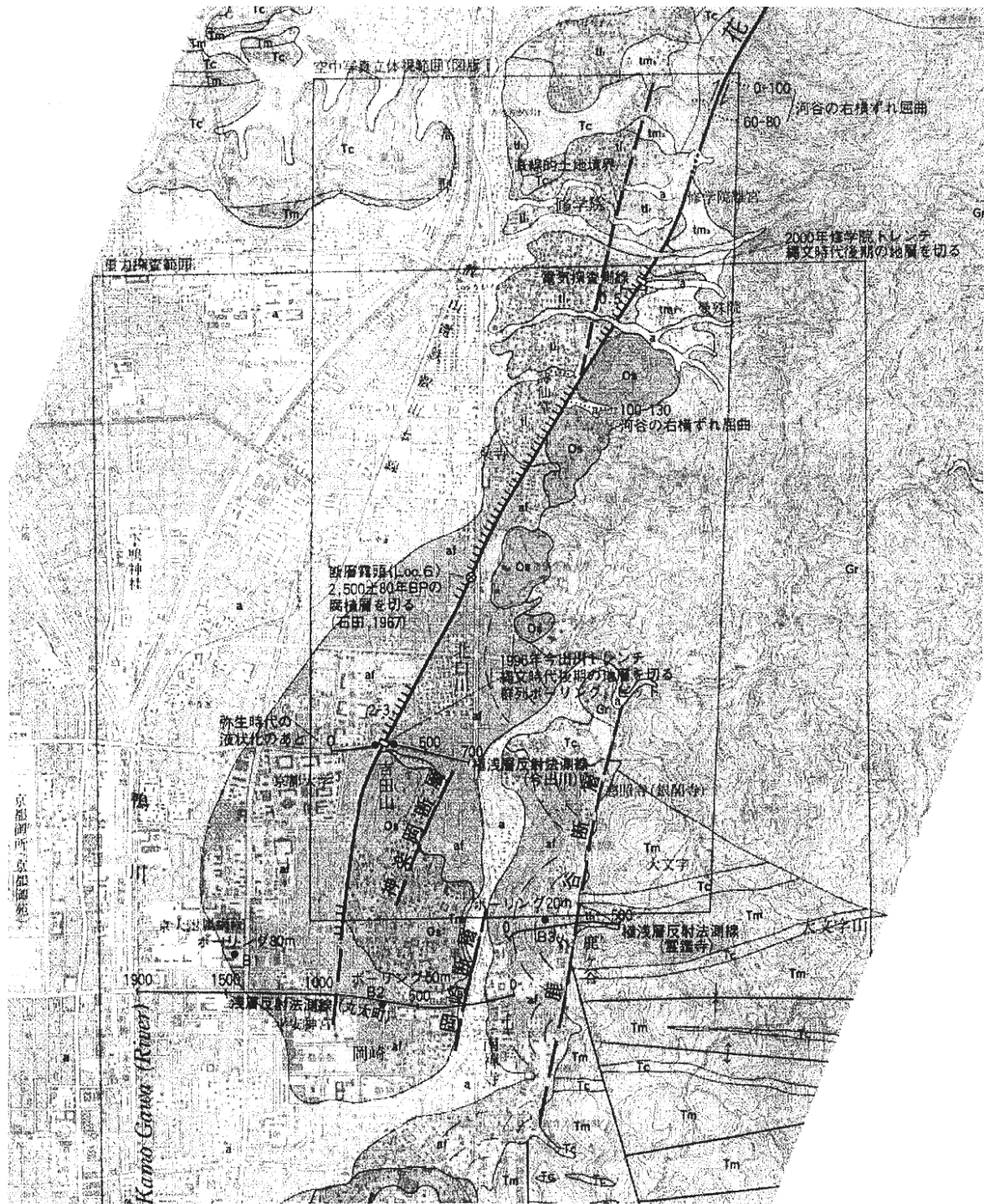
National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

産業技術総合研究所（旧地質調査所）では、活断層ストリップマップの1つとして「花折断層ストリップマップ」を刊行した。この地図は、京都市北東部から滋賀県西部に至る花折断層について、同断層を挟む約5kmの範囲の活断層および第四系などの地質の分布を2.5万分の1の縮尺で表示し、活断層と認定する根拠となった露頭・断層変位地形などを記載したものである（第1図に一部分を示す）。さらに、これまでに花折断層で実施されたトレンチ調査や物理探査の結果等をまとめた説明書（35頁）が付属している。

花折断層およびこのストリップマップの特徴として、以下の点が挙げられる。

1. 花折断層は右横ずれ変位の卓越する活断層であるため、断層を横切る小河谷に系統的な横ずれ屈曲が見られる。ストリップマップではこれらの屈曲河谷を詳細に記載した。
2. 花折断層は中生界の丹波帯堆積岩コンプレックス中を通過し、その構造に変位を与えている。また、断層のトレースは中生界の古い断層の影響を受けている。したがって、本図では、従来のストリップマップに比べて中生界の地質構造を詳細に図示した。
3. 花折断層では、これまでに地質調査所により4カ所、東大地震研究所により1カ所においてトレンチ調査が実施されている。これらについては調査位置をストリップマップ上に示すとともに、そのうち成果が公表されているものについては、説明書に調査結果の概要を記述した。
4. 花折断層の南端部は京都市北東部の市街地を通過するが、市街地化された地域では古い空中写真を判読することにより、断層変位地形の確認に努めた。
5. 花折断層においては、花折観測井および大原観測井の2つの活断層モニタリング施設が設置されている。これらについては、説明書中に地下の地質柱状図と地殻応力値のデータを収録した。

（活断層研究センター 吉岡敏和）



第1図 花折断層ストリップマップ (部分)
 Fig.1 Strip map of the hanaore fault (one part)